

平成16年度第3回愛知県周産期医療協議会

議 事 要 約

日時：平成17年3月18日（金） 午後3時から午後5時

場所：名古屋第一赤十字病院 第6会議室

委員

出席者：浅井委員、安藤委員、石川委員、石田委員、一木委員、犬塚委員、岩田委員、
岡田（純）委員、岡田（節）委員、可世木委員、小山委員、榊原委員、柴田委員、
鈴木委員、高橋委員、寺澤委員、戸苅委員（代理）、成田委員、二村委員、松澤委員、
森川委員、山崎委員

欠席者：

事務局

出席者：愛知県健康福祉部児童家庭課長、愛知県健康福祉部児童家庭課主幹（母子保健グループ）
名古屋第一赤十字病院第二小児科副部長、名古屋第一赤十字病院第二産婦人科副部長

欠席者：名古屋市健康福祉局健康部主幹（医務指導）

司会者：名古屋第一赤十字病院第二小児科副部長

議長：安藤会長

1 安藤会長あいさつ

2 犬塚技監あいさつ

3 議事

（1）愛知県周産期医療情報システム

市町村合併に伴う「専門相談報告入力」の市郡名変更について

* 4月1日に4件の市町村合併がありますので、システムに参加している医療機関の市町村名を変更します。

* 専門相談報告入力は医療圏の中での人の出入りの統計をとっていて、医療圏は変わらないので影響はありません。

* 過去の専門相談報告データの市郡名も変更されます。

* 作業は4月14日（木）9：30から11：30の定期保守作業時間内に行います。

（2）平成16年度愛知県周産期医療専門相談事業の報告と今後の課題について

<平成16年11月27日（土）小牧市民病院（尾張北部医療圏）>

* 藤田保健衛生大学 産婦人科講師 関谷隆夫先生による「産科診療におけるリスクマネージ」の講演会を開催しました。

<平成17年2月5日（土）公立陶生病院（尾張東部医療圏）>

* 名古屋市立大学大学院医学研究科 先天異常・新生児・小児医学分野講師 側島久典先生による「聴覚をはじめとする新生児スクリーニングの今後」の講演会を開催しました。

* 26名の参加がありました。

<平成17年2月10日(木)名古屋第一赤十字病院(名古屋医療圏)>

* 名古屋大学大学院環境学研究科 都市環境学専攻 建築学系 環境・安全マネジメント
講座教授 福和伸夫先生による「きたる東海・東南海地震と医療従事者」の講演会を開催しました。

* 約180名の参加がありました。

<平成17年2月19日(土)名古屋市立城北病院(名古屋医療圏)>

* 名古屋市立城西病院 第一産婦人科部長 青木耕治先生による「不育症の基本と免疫」
の講演会を開催しました。

* 約20名の参加がありました。

<平成17年2月19日(土)トヨタ記念病院(西三河北部医療圏)>

* 岡山大学大学院小児医科学教授 森島恒雄先生による「ウイルスの母子感染 - 最近の話題 -」の講演会を開催しました。

* 80名から90名の参加があり、非常に有意義な話でした。

<平成17年2月20日(日)一宮市立市民病院(尾張西部医療圏)>

* 医療法人新津小児科院長 新津直樹先生による「健やか親子21 乳幼児精神保健と子育て支援」の講演会を開催しました。

<今後の予定として>

* 平成17年3月19日(土)名古屋第二赤十字病院(名古屋医療圏)

富山医科薬科大学 産婦人科学教授 斉藤滋先生による「炎症から早産を考える」

* 今年度実施できなかった周産期センターは、来年度は是非実施をお願いします。

* 新生児気管内挿管、バギング練習用人形を購入予定ですので、都合により専門相談を行えない施設は人形を使った蘇生の講習会という形でも構わないので開催してください。

* ホームページの web 上で参加登録をされる方もみえますので、出欠席の確認をお願いします。

* 年度後半から終わりにかけての日程になりがちですので、早めの開催をお願いします。

* 今までの講演会等一覧を添付します。(資料 2 - 1 - 2 参照)

(3) 平成16年度愛知県周産期医療調査・研究事業の中間報告について

<これからの産科医療～オープン・セミオープンシステム～についての調査・研究>

医療法人格医会 可世木病院院長 可世木成明

* 産婦人科医会A会員にアンケート調査をしました。

* アンケート対象は診療所245、病院90です。

* 診療所は早くこのシステムを作って欲しいと考えています。

* 病院は勤務医にとって過重労働で大変であると考えます。

* 部分的に定着するか、努力目標と考えています。

* 現在分析中です、研修会で報告します。

<地域周産期医療施設の子育て支援に対する取り組み>

～特に助産師・看護師の役割について～

あいち小児保健医療総合センター 山崎嘉久

- * 目的は県内の周産期医療施設、助産施設における助産師や看護師の子育て支援への取り組みの実態を明らかにすることです。
 - * 対象は愛知県産婦人科医会に所属する医療機関に勤務する助産師・看護師と愛知県助産師会に所属する助産師等で871名から回答が得られました。
 - * 子どもの虐待の認識は7割程度がどこにでもあると回答し、8割は何らかの支援ができると回答しています。
 - * 助産師・看護師の資質の向上や関係者の意識啓発を目的とした地域での連絡会議等の実施が必要です。
 - * 研修会で最終報告をします。
- <愛知県下における多胎の周産期医療に及ぼしている実態に関する調査・研究>
名古屋大学医学部周産母子センター助教授 板倉敦夫
- * 調査方法は定点調査と縦断調査で回答率は約80%を得ています。
 - * 名古屋市内で3分の1、西三河で4分の1が新生児のNICU患者における不妊治療による妊娠です。
 - * 詳細は研修会で報告します。
- * 来年度の調査・研究のテーマの提案や希望があれば事務局まで申し出てください。

(4) 平成16年度愛知県周産期医療研修事業について

- * 平成16年12月11日(土)大阪府立母子保健総合医療センター 産婦人科部長 末原則幸先生による「多胎妊娠の管理と地域周産期医療システム」と題して開催しました。
- * 約80名の参加がありました。
- * 不妊治療への啓蒙についてなど興味ある内容でした。

(5) 報告事項

愛知県の平成17年度予算について

- * 総合周産期医療対策費として
 - ・周産期医療協議会開催費
 - ・総合周産期母子医療センター事業費に充てられます。
- 周産期医療施設のオープン病院化モデル事業について
- * 医療安全対策として2つの事業
 - ・周産期医療施設のオープン病院化モデル事業
 - ・内視鏡訓練施設施設整備・設備整備事業があります。
 - * 城北病院から近隣の病診連携登録医の要望があり、モデル事業に参画したいと申し出がありました。
 - * 周産期医療施設のオープン病院化は協議会としても取り組んでいる事と理解しています。
 - * 県として協議会として受けて、取り組むべきか議論する事から始めるべきと考えます。
 - * 小児科医の関わり、考え、必要度や影響度も議論の中を含めたほうがよいのでは。
 - * 協議会としてオープン化の問題は、さけて通れない問題です。

- * 周産期システムの中でハイリスク児を取扱う体制ができていて、更にモデル事業を行うには全県的に広げる事業設計を説明できないと予算はとれません。
 - * 県、会長、副会長等数名で検討する機会を設けて、平成17年度第1回協議会の時に提案し議論したいと考えます。
- 応需情報入力について
- * 応需情報モニターを利用している方から、データの更新がされていないと指摘がありました。
 - * 週末の搬送体制をとるということで入力をしてください。
 - * 協力をお願いします。

(6) その他

< 愛知県内における PICU 等周産期医療病床の調査について >

- * NICU は資料より県内で 140 床必要であり、現在 70 床くらいあります。
- * PICU については、はっきりした資料がありません。
- * 周産期集中治療病床数を検討するために基礎データを収集し分析します。
- * 平成 17 年度第 1 回の協議会で承認を得たいと考えています。

< その他 >

- * 平成 16 年度版 『保健機関から医療機関への PR ～妊娠中から授乳期の母子保健活動～』を作成しましたので利用してください。
- * 平成 17 年度からはインターネット上で見られるようにする予定です。
- * 平成 17 年度第 1 回愛知県周産期医療協議会を 6 月 3 日（金）に開催します。